

2025大阪・関西万博会場での ごみ減量・資源循環はどうだったか

～調査報告をもとに、2027横浜国際園芸博覧会協会に提案～

NPO大阪府民環境会議：(大阪ごみ減量推進会議:地球環境
基金の受託調査に参加して) 2026.3. 11

プラ容器削減・熱中症対策に給水スポット ～未来社会の実験場～86台 1,206.5万回

- OSGコーポレーションの社会貢献活動として設置・管理運営
- プラスチック削減へ。さらに象印のボトル洗浄機の併設はこれからの社会の当たり前として意義があった
- 協会のHPには常温型の公共水道のみ設置表示。
- 冷水給水型はOSG(株)のHPより設置力所を確認するしかなかった



5月21日 気温25℃をこえた。マイボトル持参者も多くなった

会場内給水・マイボトル洗浄機



常温型公共給水場所 マイボトル
対応できるのは下の水栓しかない

6月の様子 自販機の横にある給水機に 長蛇の列 大きなボトル持参者も多くなった



来場者の多くの方から評価を得た給水機を街にある風景に”万博のレガシーを実現するために”

☆「万博のレガシーとして万博記念公園への移設を」と大阪大学キャリアマイボトルのメンバーの動きも



万博ではじめてリユース食器導入された



- 協会は、給水機と同様、周知は事業者責任にありと。リユース文化が広がっていない中、最初はごみとして捨てられるケース多くあり、スタッフが3Rステーション前で「捨てないで」と連日告知
- 左は5月21日の様子

リユース食器の使用実態に関する観察調査



- ・ 調査日 8月8日 学識経験者の予備調査
- ・ 8月9.10日、12～14日、16,17日 7日間
- ・ 調査人数 ボランティア延べ62名
- ・ 調査場所 キッチンカーエリア6/9カ所
- ・ 観察項目

- ①返却された食器の種類
- ②リユース食器と一緒に捨てようとしたもの
- ③来場者の行動観察

サンプル数 5,485件

エリア6か所の一例

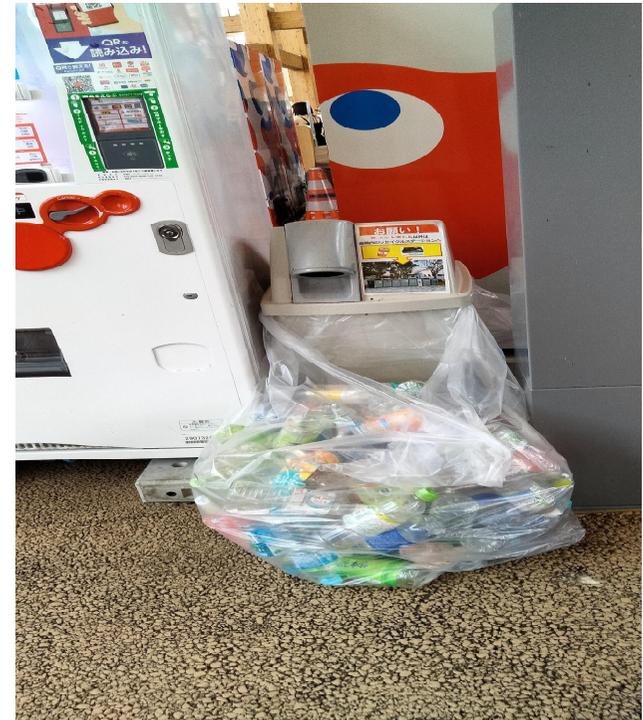
キッチンカーの数	4
食器返却を促す掲示があるキッチンカーの割合	0
飲食スペース	あり
3Rステーション	なし
返却所スタッフ	在
主な販売物	かき氷、マンゴーシャーベット、アイス、マンゴーパフェ、ショコラフランポワーズアイス、ポテト、唐揚げ、リブステーキ
回収物(リユース食器)	カップ、丸皿、トレー
回収物(非リユース)	食べ飲み残し・生ごみ、ストロー
適切率	43.36%
不適切率	56.64%



酷暑続きで ~目視観察~

8月16日 かき氷リユース容器山盛り(左)

9月10日 さらに暑さ続きで 自販機回収BOX追
いつかず、自販機横にごみ袋



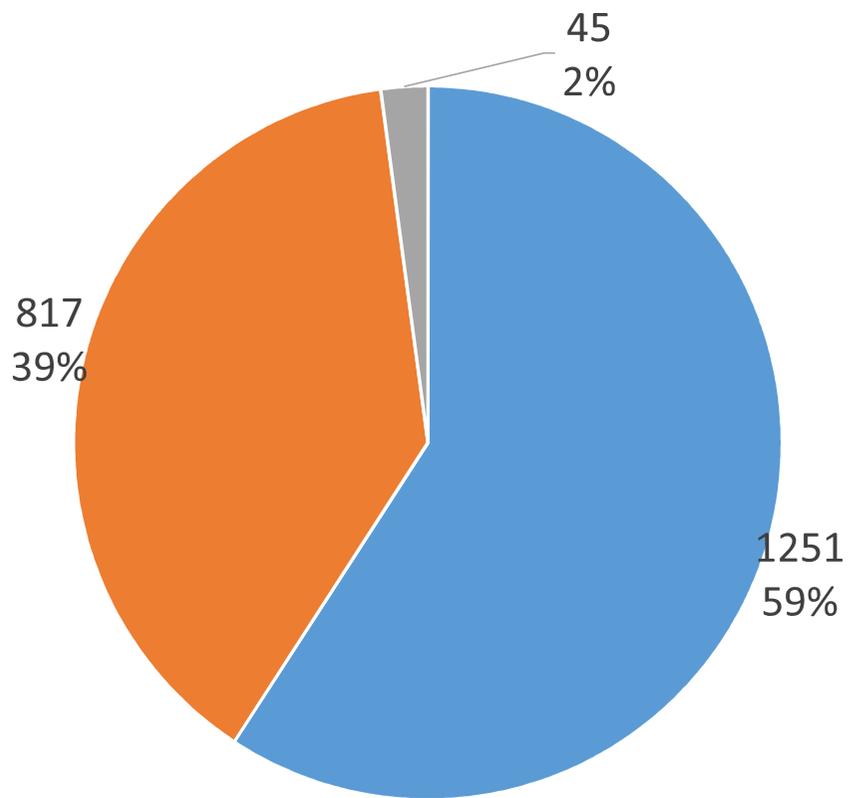
★3Rステーションの利用実態の調査 <目標値より4割削減20年前の愛知博と比して>

9分別：燃やすごみ、燃やさないごみ、生ごみ・食品廃棄物、飲み残し、ペットボトル、ペットボトルキャップ、プラスチック、紙ごみ、缶・びん

調査日 9月10, 21日 2日間
調査人数 ボランティア延べ19名
調査方法 会場内の3Rステーション約50カ所のうち34カ所
調査方法 会場内の3Rステーションで「紙コップ、紙容器をどのボックスに入れたか」など6つの観点で、3Rステーションにごみを捨てに来た人の行動観察
サンプル数 5,485件

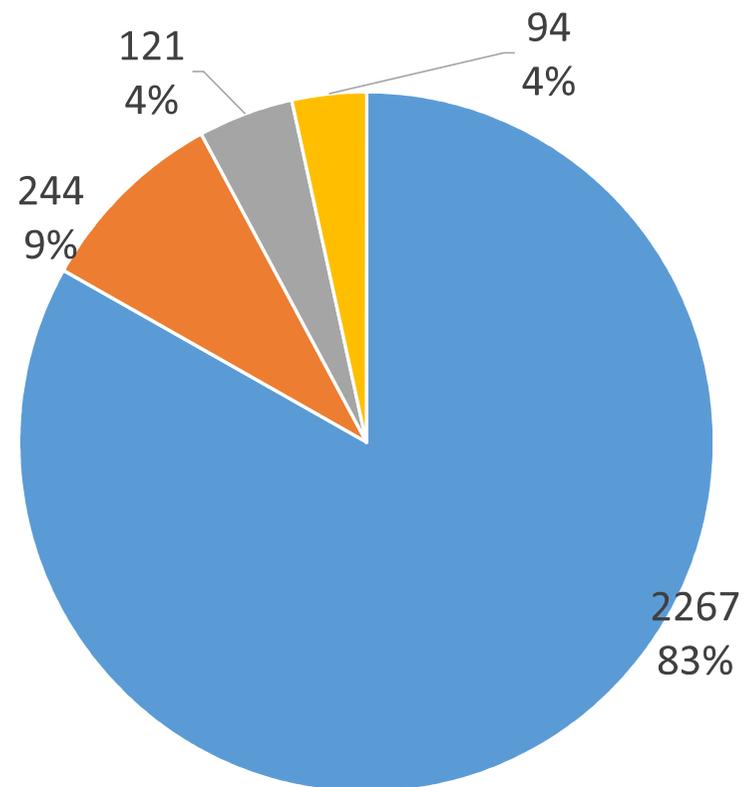


紙コップ・紙容器を
どのボックスに入れたか



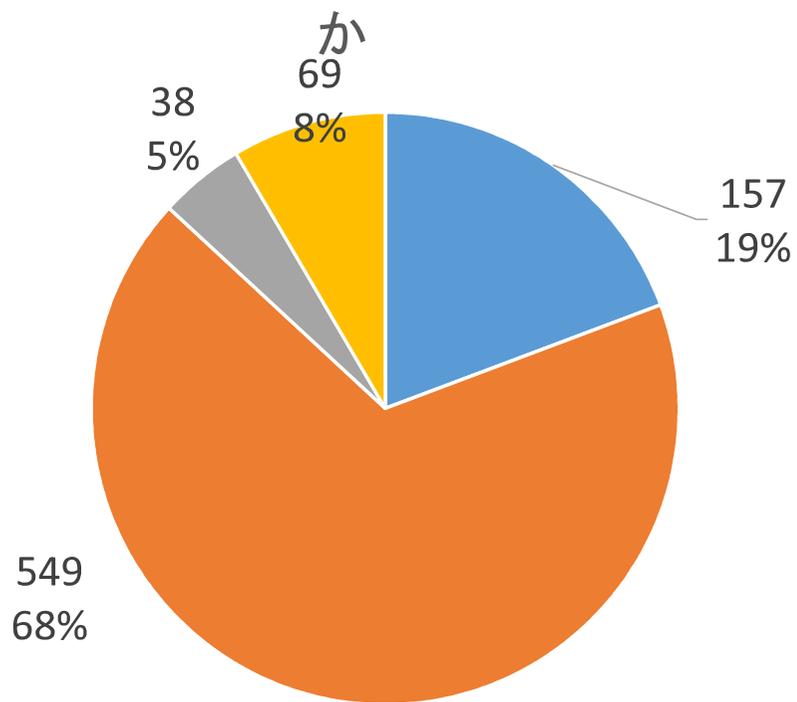
■ 紙ごみ ■ 燃やすごみ ■ その他

プラスチックのごみを
どこに入れたか



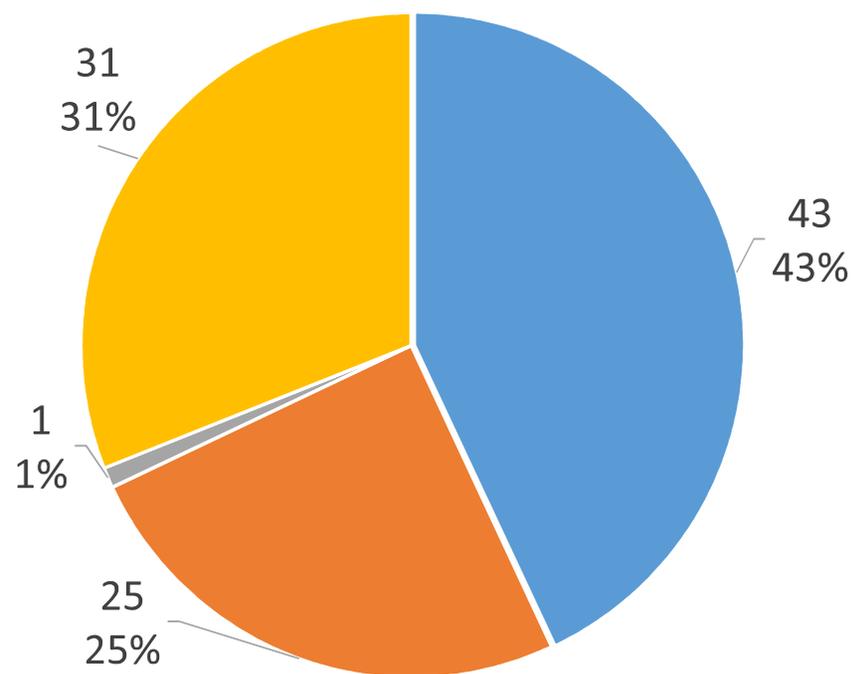
■ プラスチック ■ 燃やすごみ
■ 燃やさないごみ ■ その他

レジ袋に入ったごみをそのまま捨てた場合、どこに入れたか



- プラスチック
- 燃やすごみ
- 燃やさないごみ
- その他

リユース食器・リユースカップを捨てに来た人はどこに捨てたか



- プラスチック
- 燃やすごみ
- 燃やさないごみ
- その他

日本人と外国人の違い

紙コップ・紙容器をどのボックスに入れたか？

人	回答数	紙コップ・紙容器をどのボックスに入れたか？		
		紙ごみ (%)	燃やすごみ (%)	その他 (%)
日本人	1955	1143 (58.47%)	772 (39.49%)	40 (2.05%)
外国人	158	108 (68.35%)	45 (28.48%)	5 (3.16%)
全体	2113	1251 (59.20%)	817 (38.67%)	45 (2.13%)

プラスチックのごみをどこに入れたか？

人	回答数	プラスチックのごみをどこに入れたか？			
		プラスチック (%)	燃やすごみ (%)	燃やさないごみ (%)	その他 (%)
日本人	2507	2072 (82.65%)	228 (9.09%)	115 (4.59%)	90 (3.59%)
外国人	221	195 (88.24%)	16 (7.24%)	6 (2.71%)	4 (1.81%)
全体	2728	2267 (83.10%)	244 (8.94%)	121 (4.44%)	94 (3.45%)

外国人の方が紙ごみを紙へ、プラごみをプラへ投入している傾向が高い
日本人の方が紙ごみやプラごみを燃やすごみに入れる人の割合が高い

SDGs万博市民アクション:資源循環分科会として 横浜2027国際園芸博覧会(GREEN×EXPO2027)におけるごみ対策が より効果的・効率的に行われるための提案を行いました

基本的な考え方

「ごみゼロ(焼却ゼロ・埋立ゼロ)」を目標に掲げ、来場者と一緒にごみゼロを目指す
＜分別ステーションについて＞

- ①ごみ回収場所でなく「ゼロ・ウエストステーション」に、素材別ボックスを
- ②多言語表示、ピクトグラム活用
- ③スタッフへの事前研修と現場での積極的な声かけの周知
- ④万博での分別ルールの徹底
- ⑤生ごみの資源化施設を恒久施設として会場内又は会場のすぐ近くに整備を

＜給水スポットについて＞

- ①主催者の責任で会場内至るところに給水スポットを
- ②開幕前からマイボトル持参の啓発を
- ③給水機が園芸博終了後も有効利用されるよう自治体が早めに検討のテーブルを

<リユース食器使用普及を>

- ①事業者間の契約ではなく、博覧会協会と飲食事業者、博覧会協会と リユース食器事業者の契約に
- ②リユース食器のコストは主催者も応分の負担を
- ③「店舗・飲食場所・返却所・ごみステーション」をセットに
- ④リユース食器と3Rステーションを一体化すべき
- ⑤リユース食器はその旨を明確に表示したデザインに
- ⑥リユース食器の洗浄施設は、恒久施設として会場内又は会場のすぐ近くに整備を
- ⑦リユース食器をその場で洗えるようにするとベスト

調査協力者

浅利美鈴(総合地球環境学研究所教授)
花田真理子(大阪府立環境農林水産総合研究
所客員研究員、大阪ごみ減量推進会議会長)
大沼進(北海道大学教授)
岡山朋子(大正大学教授)
花嶋温子(大阪産業大学教授)
関根久仁子((株)これやこの代表取締役)
栗岡理子(環境ジャーナリスト)

賛同団体

ごみゼロネット大阪
さがみはら環境問題研究会
NPO法人大阪府民環境会議
SDGs万博市民アクション
社会福祉法人大阪ボランティア協会
ごみ減量ネットワーク